

# 「補聴器用電池」 取扱いについて①

## ～電池の種類と寿命～

**PR536(10A/黄色)約3～10日**

⇒ CICタイプ(小型耳あな型)

**PR41(312/茶色)約6日～12日**

⇒ カナルタイプ(耳あな型)、

耳かけRIC型(小型耳かけ)

**PR48(13/橙色)約6～14日**

⇒ フルサイズ(耳あな型)、高度用耳かけ型

**PR44(675/青色)約9日～20日**

⇒ 重度用耳かけ型



電池は空気を取り込んで発電します。シールが貼ってあっても、時間経過で寿命が減ります(1年で約10%減少)。シールを剥がして「約1分」経てば、電圧が安定して供給できるようになります。不安定な状態で使用すると、補聴器が電池交換時期(電池残量低下)と勘違いして、新品でもお知らせ音がなる場合があります。

冬場の低温、窓を閉め切った部屋(二酸化炭素濃度が高い環境)では、電池寿命が約30～40%短くなります。冬場は、使用前に電池を手で温めてから使うと、電圧が安定しやすいです。

※裏面あります

# 「補聴器用電池」 取扱いについて②

## ～電池寿命に影響するもの～

- ①個々の聴力（音の大きさ）
- ②使用時間
- ③音環境の差（騒がしい所での使用が多いと、消耗しやすい）
- ④器種による性能差（器種ごとに異なる）
- ⑤ワイヤレス機器との連携（テレビやスマホとの連携）
- ⑥使用環境(温度/湿度/乾燥/標高)

## ～保管方法（長持ちさせるコツ）～

室内で高温多湿、乾燥を避けて保管（気温15～25度）、使わない時は必ず電池フタを開けて、電源を切りましょう。乾燥ケースや乾燥器には、補聴器本体だけを入れて、電池を一緒に入れないようにしましょう。

